

# 第6次連結中期経営計画（2018-2022年度）の進捗

『Oil & New 石油のすべてを。次の「エネルギー」を。』をスローガンに、2018年度より5か年の第6次連結中期経営計画（以下、第6次中計）が始まりました。

“稼ぐ力”と“財務体質”を強化することで、市場環境変化に耐え得る自己資本の厚みとネットD/Eレシオ1倍台前半を早期に実現するとともに、石油化学事業や風力発電事業を中心とした将来に向けた成長ドライバーの強化に取り組んでいます。

第6次連結中期経営計画・  
連結中期  
サステナビリティ計画

ゴール  
2022年度

次期連結中期経営計画  
（2023年度～）

財務と非財務を融合し、  
サステナブル経営を深化

長期ビジョン

2050年  
カーボンネットゼロの達成

当社グループの  
持続可能な成長を通じて  
SDGs実現へ貢献する

## 基本方針

**Oil & New**  
石油のすべてを。次の「エネルギー」を。

前連結中計は「成長の基礎を固め、盤石な経営基盤を確立する5年」と位置づけ、石油精製・販売事業の収益力回復を筆頭に、供給部門の合理化など構造改善を進めてきました。

第6次中計は、前連結中計で確立した収益基盤をベースとして、前連結中計の中心であった石油精製・販売（Oil）を第6次中計でも継続しながら、石油化学事業や風力発電事業への成長投資（New）を進め、脱化石を見込んだ事業ポートフォリオの拡充をめざしています。

Oil

- 高硫黄C重油の使用を規制するIMO<sup>※1</sup>規制等に対応し、クリーンな船舶用燃料供給で先行する等、石油事業の収益力を強化  
**収益力を基盤とした財務体質の健全化**

New

- 風力発電事業を始めとした次代の成長を担う投資を実施  
**事業活動を通じてSDGs<sup>※2</sup>実現に貢献**

※1 国際海事機構（IMO）が、大気汚染防止策として、船舶が排出する硫黄酸化物（SOx）を減らすため導入した規制。2020年より船舶燃料に含まれる硫黄分が3.5%から0.5%まで引き下げられています。

※2 「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

### 前連結中計の主な取り組み

**収益力の回復** 競争力確保のため、合理化施策として坂出製油所を閉鎖し、3製油所体制へ移行

**成長戦略の実行** ヘイル油田開発、パラキシレン装置、風力発電など大型成長投資を実施

➡ **前連結中計にて収益力を確保、第6次中計のNewへの投資へ繋げる**

- 長期的な方向性を見据え、次の成長に向け事業ポートフォリオを強化
- 石油開発や石油事業での収益力強化を基に財務基盤を確立

第6次中計3年目となる2020年度は、期中における原油価格上昇によるプラスのタイムラグ、キグナス石油への供給拡大による四品数量の増販などにより、在庫影響を除く経常利益は前年比81億円増益の766億円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は859億円と過去最高を更新しました。

ネットD/Eレシオは1.59倍となり財務体質は大きく改善となり、各種経営目標は第6次中計最終年度に向けて達成できる見込みです。

## 経営目標の進捗

| 経営目標                   | 実績             |                |                |                             |
|------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------------------|
|                        | 2018年度         | 2019年度         | 2020年度         | 2022年度目標                    |
| 経常利益（在庫影響除き）           | 1,074億円        | 685億円          | 766億円          | 1,200億円以上                   |
| 当期純利益                  | 531億円          | -282億円         | 859億円          | 500億円以上                     |
| フリー・キャッシュ・フロー          | 60億円           | 275億円          | 828億円          | 1,500億円以上（2018-2022年度5年間合計） |
| 自己資本（自己資本比率）           | 2,811億円（16.5%） | 2,398億円（14.6%） | 3,249億円（19.0%） | 4,000億円以上（20%以上）            |
| ネットD/Eレシオ <sup>※</sup> | 1.98倍          | 2.41倍          | 1.59倍          | 1.0～1.5倍                    |
| ROE                    | 20.4%          | -10.8%         | 30.4%          | 10%以上                       |
| 前提条件                   |                |                |                |                             |
| 原油価格（ドバイ）（\$/B）        | 69             | 60             | 45             | 70                          |
| 為替（¥/\$）               | 111            | 109            | 106            | 110                         |

※ 2020年3月31日実行のハイブリッドローン300億円について、50%を資本とみなして算出

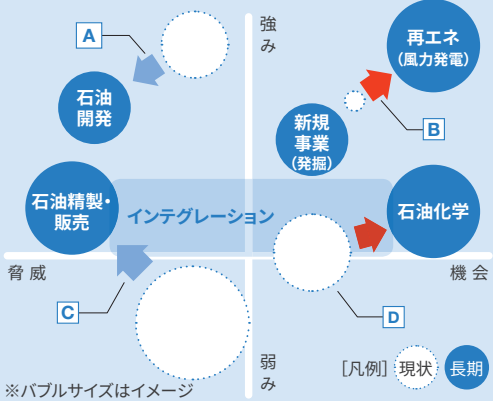
## コスモエネルギーグループはサステナブル経営を実現します

当社グループは、エネルギー企業として人々の暮らしに安心・安全を提供するとともに、地球環境を守る責任を担っていることを自覚し、グループ理念に「私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展を

めざします」と掲げています。

当社グループは、事業から排出する温室効果ガス（GHG）を2050年度までにネットゼロにする、カーボンネットゼロ宣言を長期ビジョンとして掲げています。

### 事業ポートフォリオの移行



第6次中計では石油関連事業の競争力強化と再生可能エネルギーへのシフトを基本方針としており、次期中計において事業ポートフォリオの移行をスピード感を持って進めていきます。

- 脱化石燃料の動きを睨み石油関連事業の競争力を強化しつつ積極的な投資により再生可能エネルギー事業を新たな柱とする
- 当社グループの持続可能な成長を通じてSDGs実現へ貢献する

#### A

- 2030年代以降にはピークアウトの可能性
- コスト競争力のある事業構造が重要

第6次  
中計

長期

- 生産量維持と操業費低減に専念
- 当社の強みを活かし付加価値が得られる案件を志向

#### B

- 陸上は適地飽和も洋上風力は拡大

第6次  
中計

長期

- 陸上風力を最大化
- 洋上風力へ進出
- 主力事業へ
- 洋上風力のリーディングカンパニーへ

#### C

- 国内需要は減退継続も、2030年頃までの相対的な競争力は改善

第6次  
中計

長期

- 収益油種に集中
- 石化シナジーの強化
- 燃料油から石化原料ヘシフト

#### D

- 世界の人口増を背景に国際市場は拡大
- エチレン生産では一定の競争力を保有
- 石油精製からの生産シフトが可能

第6次  
中計

長期

- 国際市場における競争力の維持強化
- 差別化商品の開発
- 石油精製とのシナジー強化
- 燃料油から石化原料ヘシフト